

日韓の「伊万里グリーンパワー」名乗り

バイオマス発電所継続へ

新計画 出力縮小2.3万キロワット2基

伊万里市の県営七ツ島工業団地に国内最大級のバイオマス発電所を建設する計画は頓挫していたが、「伊万里グリーンパワー」(佐賀市)は17日、「事業計画を引き継ぐ」と同市役所で記者発表した。発電出力は4・6万キロワットに縮小する。

建設計画は2年前、新規参入の電力事業者の日本新電力(東京)が出力20万キロワットの発電プラント建設を発表した。今年度中の操業開始を目指していたが、親会社は今春、破産したため、計画は頓挫していた。日韓の企業が9月、事業計画を引き継ぐため県と市の了解を得て、伊万里グリーンパワーを設立した。

新計画は①用地は15・4畝の県有地②燃料はマレーシア、インドネシアのヤシ殻を使う——点で旧計画と同じだが、出力は縮小し、2・3万キロワットのバイオマス発電機を2基建設する。同社は「5万キロワットを超えると環境アセスが厳しくなり、迅速な事業展開ができなくなる」と説明した。

来年度に着工。2019年9月に1基で操業を開始し、それから3年以内に2基目を完成させる。九州電力に20年間売電し、完成時には年間80億円の売電収入を見込む。従業員は61人(うち地元雇用は50人)を予定。総事業費は約200億円。

新会社は、農産物の生産販売や太陽光発電を手掛ける佐賀市の「アグリ」が10%、韓国のエネルギー関連ブ



「伊万里市の活性化のお役に立ちたい」と語る坂本社長(左)と朴社長

ある」と語り、朴社長は「伊万里は有名な陶磁器の産地。陶磁器に負けないよう魂を込めて事業に取り組む」と述べた。【渡部正隆】